

泉

いずみ

―目次―

表紙 「除夜の鐘」

百折不撓 「能登地震①」

野呂大悟

災害・事故に思う

野呂美道

教育への救い

野呂美道

連載「私の出会った神様たち③③」

ともに歩み 命に寄り添う⑧ 浄香

掲示板・お知らせなど



除夜の鐘撞き (2023.12.31)

にぎやかに 煩惱たたく 除夜の鐘 博子

一月一日に能登半島で大きな地震が発生しました。この地震で亡くなられた方々へ心よりお悔やみ申し上げます。また、まだ避難を余儀なくされている方々など多くの方々に對しまして一日も早い復興と日常生活が戻りますことを心よりお祈り申し上げます。

二〇二四年のスタートは、能登半島の地震。さらには、羽田空港での飛行機接触事故と大きなニュースが飛び込んできました。羽田空港の事故においては、能登地震の被災者に向けた救援物資を運ぼうとしていた自衛隊の方々がお亡くなりになるといふ、なんとも言葉では言い切れない事故となりました。

天災は時期を選ばず。お正月という一年でも最初の日。「おめでとうございます！」と出会う人に向けた挨拶を交わして、新たな一年をお祝いするといふ日に起きたこの地震に、多くの事を考えさせられています。当日私たち家族は親戚の家にお邪魔してあります。そんな時、全員の携帯に大きな警報音。地震だ！と思った瞬間に揺れ始め、大きな揺れにすぐに「どこかで大きな地震が起こっているな」と思いましたが、しばらくどうするにも動けずに立ち尽くすのみ。テレビをつける、輪島市の映像が流れ、砂埃も見えました。しばらくすると、津波警報と大津波警報。

本当に大変な被害になっています。この地震での液化化現象。道がぐにやりと曲がり、車も通れるか分からない状態。もちろんライフラインはス

トップ。倒壊した家々。本当に見るもの聞くことが、他人事じゃないなと感じさせられます。

正月が明けて仕事が始まると、仕事の仲間から連絡がありました。「今能登にいますけど、障がい者施設が大変なことになっているので、助けて欲しい」と。避難所にも行けず、電気ガス水道がストップしている施設で、職員が障がいのある方々を支えている。しかし、必要な物資が届かずに、良くない状況が続いているようでした。すぐに必要な物資を確認して、配達可能な最北の施設へ送り、そこから仲間が自力で届けるという方法でしばらく物資をかき集め送っていました。「水が出ない。電気がない。」という生活を経験したことがない私は、水道が止まっていたら何が必要なんだろうか…、しかも、障がいのある方々が何人もいる施設…。と最初は思いつくままに色々と言葉に詰めて、連日送り続けていました。数日後に、「お願いがある」と仲間から連絡が。「段ボールはバケツリレーが出来る程度の大きさで、一つの段ボールに一種類の物を入れて、何が入っているか分かるように大きく書いてください。こちらで、中身を空けて確認し仕分ける余裕と時間がまったくない。さらに大きな段ボールだと運べず、置いておくスペースも限られている」という事でした。

今回の地震では今もなおこのような連絡のやり取りをしながら、情報を共有しています。要配慮者の避難を始め、多くの事に困難さを抱えている実態とそこから考えるべき教えを次回へ続けます。

◆今年の元旦は大災害で始まった。能登の大地震と津波、あくる日は日本航空機と海上保安庁の固定翼機との衝突、続いて小倉地区の火災……。とんだお正月だった。◆能登の地震については、別刷りのハザード会のビラを見てほしい。会長の土方匡紀（まさき）君（高校二年生）はじめ、全会員が募金活動を始めることを決めた。◆私の友人の竹原氏は能登教区の教務所長、彼にすべてを託すことにした。彼によると、一般のボランティアはまだ活動しないので欲しいとの事。受け入れ態勢ができていないことと道路が繋がっていないので、車が入り込めないという理由だ。支援物資も、必要なものが必要な場所に運べる保証がないという事だ。今私たちにできることは、募金活動だ。竹原氏に支援金を振り込むことがまず始め、その後の様子を見て、支援に出かけることも検討している。◆ご縁のある方には是非募金をお願いしたい。ハザードの会員が折を見て近くの場合には皆さんの家庭にお邪魔する予定だ。合わせて、私宛の口座へ募金の振り込みも訴える活動から始めたい。皆さん、きっと何かの支援をしたいと思っていらいっしやると思う。その善意をこの窓口に注いでもらいたい。◆さて、日航機の炎上事故について。映像を見ていたら、全員火災で焼け死んでもおかしくはない大惨事になる可能性もあった今回の事故。何と乗客はケガこそすれ、全員脱出して死者はゼロ、という報道に私は信じられない気がした。でも、事実だった！18分間の間に、機長をはじめスタッフの適切な誘導のおかげで、退避できた。◆スタッフは

満席の状態、90秒以内に全員が脱出する訓練を積んでいた。最後に機長が全員の退避を確認して、脱出した。素晴らしい限りだ。◆両方の事件に共通点がある。やはり「備えあれば憂いなし」という事。被災地に蓄えがあれば、支援に来るまで、数日の生き残りが可能だ。集落全体が助け合えば、生存の可能性がぐっと増す。◆大切なことは各戸が備えていることが大切。避難所を頼らず、行政を頼まず、自分たちで何とかすること、日ごろから想定しておくことに尽きる。（自助・共助）飛行機事故の教訓も災害時の備えと全く同じだ。◆私たちはこの経験から学ばなくてはならない。教訓を生かさなければ、また同じ被害を繰り返すばかり。どうか、他人事と思わず、自分の問題にして欲しい。



◆先月、某中学の教師集団が、生徒を委縮させているような教育をしていると、私は痛烈に批判した。ところが、驚いたことが起きた。◆その中学の生徒が思わぬ感想文を寄せてくれた。それを読んで、私は驚嘆した。以下に全文を紹介しよう。

◆この授業は「こうだといいな」や「こうしたいな」と思うだけではなく、そのアイデアを実現してみよう、というような勇気をもらえる授業だと思いました。◆私はまだ14才で、少子高齢化が進んでいく中、まちをより良くするには、学生・若い人たちから動き出さないといけないと思いました。今、安心安全で楽しく暮らすことができているのは、今の高齢者の方が作り上げたものであり、私たちも未来の人へ繋げていけるようなまちづくりをしていかなければいけないという自覚を持つことができました。若いうちに失敗しても大丈夫という精神で、たくさんの方に挑戦して、エネルギーあふれる人間になりたいです。◆この授業で一番心に響いたことがあります。災害が起きた際に、逃げずにその場にとどまって死を待つ人がいました。その人を説得している消防隊の人も犠牲になってしまった話です。復興が難しいとか、自分は役に立たないとかを考えて、死を受け入れようとするのも分かりませんが、生きたい人をも巻き込むのはすごく自分勝手だと思います。とりあえず生き残って、被災地が元通りになるまで協力しようと話してくれて、そのことがとても心に残りました。この話を聞くまでは、災害が起きたとき、老人は死を待つ行動しかとれないのではないかと

と思いましたが、まわりの事、この後のことを考えている方の話を聞き、自分だけの事ではなく、他の人や、未来のことを考える行動を取れる人間になりたいと、強く思いました。◆コロナが流行り始めた地域との行事も少なくなりました。制限が少なくなつた今でも、遠慮がちな人たちが多いように感じられます。でも、そういう人たちに負けず、私は自分でちゃんと考えて、良いと思ったことは行動していきたいです。有難うございました。

◆私は石像の様な表情の生徒たちだから、感想文も無味乾燥なものだと決めつけていた。しかしそれは私の間違いだつた。表情も変えず聞いていてくれた一生徒が、こんなにも素晴らしい感想を述べてくれるとは夢にも考えていなかったからだ。心から生徒たちに謝罪する。◆積極的に挙手をして意見を述べてくれた中学は、期待に反して淡々とした感想文にとどまっていたことも、私には驚きだつた。◆発言力と、文章表現力とは時々このように一致しない事もあるのだと教えられた。生徒の思慮深さや、心の内を少し理解できたように感じて、私は決めつけた自分を恥じた。◆しかし、私は授業を始めるにあたって、教師集団から要望のあった事項を決して受け入れるほど寛容ではない。反省会で、行政側から「彼らは生徒に対して過保護なのです。」という意見が出た。◆また、ある学校の元校長の話で、荒れた自分の中学に教育実習の監督にやって来た大学教授の白塗りのベントツに、唾を吐いた中学生の話があつた。校長は教授に平謝りに謝つたという。校長と

いう立場上そうせざるを得ないと思うが、私は少し違和感も持った。学校訪問に白塗りのベントツはないよなあ！生徒の気持ちに寄り添うと、腹立つよなあ！特に荒れた生徒は、ささいなことでも、自分を抑圧する権力にあらがうものなんだよなあ。◆そんな事も思っただ、複雑な心境になった。◆生徒を大人しくなるように管理して押さえておけば、教師集団はとも楽だろうと思う。でも、多感な生徒は抑圧されて、果たして楽しい中学生生活を送っているかと教師集団は考えているのだろうか！思春期の彼らは、悩みながら、苦しみながら、大人になろうと様々な試練を受けていると私は思うのだ。◆その悩みや苦しみに寄り添うことをせず、ただ管理して大人しくさせ、時には内申ポイントをちらつかせて、陰で脅すような指導をしていないか？◆血気盛んな子供たちに睡眠薬を注入するような教育は、やはり私には到底認められない。◆某中学の一生徒の素晴らしい感想文は、多分、そのような状況から脱却したいという思いで書いたのではないだろうか。つまり、抑圧をバネにして、それを超える力をこの生徒は自分で持ってしまったのではなからうか。とすれば、なかなかのものだ。◆ワイン用のブドウは収穫前に水分を断つと甘みを増し、塩分の多い地域のトマトやイチゴやネギはそれに打ち勝とうと糖度を上げると聞いた。

◆反面教師とまでは言いたくないが、この生徒は、感想文という正当な手段をもって、「私は充実した中学生活を送っているよ！」という事を見事にアピールしている気がして、私もこの生徒に勇気づけられた。そして「負けないで！」と思わずエールを送ってしまった。



東京大空襲②

◆お母さんは僕の手ではどうにもならないけれど、赤ちゃんだけは抱けるから、この赤ちゃんを僕はここに置いてはおけませんでした。なぜかというところ、ここに置いておくと、あとでトラックが来て、身元不明の死体をごみのように一杯積んで、一か所に集めてガソリンをかけて処分しているのを僕は見ているからです。◆この赤ちゃんだつてほっておけばそうなります。このお母さんの気持ちに対して、それは許されぬことです。◆僕はこの赤ちゃんを抱いて、児童相談所に行きました。そして、「死んだものを連れてきてみましょうがない。」と言われ、泣いて怒ったことをいまだに覚えています。◆赤ちゃんには認識票がついていました。昔は空襲がありましたから、みんな血液型と名前を貼ったのをつけていました。◆名前が、幸せに生きる、「幸生」とつけられていました。「ゆきお」と読むのでしょうか。「ゆきお」くんは幸せになれずに死んでしまったけれども。◆児童相談所に連れていっても、死んだ子を連れてきてもしようがないと言ったのも無理もないから、お父さんやお母さんにはぐれてしまつた子が何百人もそこに収容されていました。それを見たときに僕は思ったのです。僕は助かったけれども、助からなかった親の子かも分からない。小学生はみんな学童疎開で田舎

に行っていますけれども、お父さんやお母さんと暮らしている小さい子が、どっかで手を離れたかして、はぐれてしまったのです。◆僕の生まれたのは四月七日ですけれども、もう一つの僕の誕生日ができたのです。それは三月十日です。◆なぜなら僕はそれを見たときに、自分がみなしごであったことはどうでもいいことだと思つたからです。今までみなしごであることを良いことにして、それを売り物にして、人の同情を買おう気持ちになつたわけではありませんでした。◆だけれど、この子たちは親が殺されて、家を焼かれてしまった子どもたちです。そして、私の親は病気で死んだのです。お葬式もちゃんとしてもらい、人間らしく葬られていったのです。◆この子たちはそうじゃない。こういう子供たちがこれからどんなふう成長していくのかな、ということも思つたときに、俺はもう自分の事はどうでもいい、とその時はかっこよく決心したのです。◆僕は人間として少し新しくなつたというか、社会性が身についたという意味で、三月十日を僕の第二の誕生日とするのです。(続く)



ともに歩み、命に寄り添う

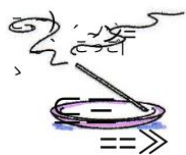
第八回 旅支度を整える

きよ
か
浄香

私の母が亡くなったときのこと。母が意識不明になったとき、父が「家に帰って喪服を出しておきなさい。そして遺影にする写真を選んで」と私に言いました。私は「まだ、お母さんは生きてるよ。そんなこと、絶対にできない」と言うと「慌てて用意してはだめだから」と言われました。あれから二十年以上経ち、父の看取りに入ったとき、当時の父の言葉がふつと浮かんできたのです。父が亡くなれば、一人っ子の私はいろいろと忙しくなることが想像できました。ならば、今のうちにできることをしておこうと、父が寝ている間にそつと準備に取り掛かりました。まず、遺影の写真です。「この写真を遺影にする」と昔から父が言っていた写真がありました。しかし、それでは若すぎました。「さすがに、この写真は違うよ」と、コロナの直前に教え子さんたちと一緒に日帰り旅行した時の写真の中から選びました。喪服を筆筒から出し、父の法名の御紙をお仏壇の引出しの一番上に。死装束は仏衣ではなく、仕事が好きだった父の一番お気に入りのスーツとネクタイ、真新しいワイシャツに。父が「親父の形見だから」とお仏壇の横に掛けて大切にしていた教衣(布袍)も忘れずに。

コロナ禍でお葬式をしてもいいのかという迷いがありました

た。もし執り行うことになったら、コロナ禍でご参列いただいた方々に感謝の気持ちをお伝えしたい。そこで、粗供養品に加えて父が大好きだった蓮のお茶をお渡しすることにしました。お取り寄せするためにお店に電話をかけ、「お葬式でお配りしたいのでお悔み用の個包装をお願いできますか？」とお聞きすると、「数日お時間をいただきますが、お葬式に間に合いますか」とのこと。私は「大丈夫です。今、看取り中なので」と言うと、お店の方が大変驚かれました。数日後、大きな段ボール箱が届きました。父に見つからないように隠すのが大変です。そしてお茶に添えるメッセージを一生懸命考えて印刷して用意しました。柩に入れるものも選びました。父が大切にしていたお念珠、経本、母の写真、母の里で父がとってきた蓮の実……。そして、父が毎日焚いていた大好きな伽羅の御香。生前、父はお葬式に行くときには必ず持参し、最期のお別れで柩に入れていたそうです。父の代理で私がお葬式に参列するとき、「これをお顔の近くに添えていらつしゃい。お花と心地よい伽羅の香に包まれて旅立っていたらいいからね」と必ず一箱渡されました。夜な夜な準備をしながら「お父さんはまだ生きてるのに、こんな準備をしてもいいのかな」と思いましたが、父のことです。きつと笑って「それで、いいんだよ」と言ってくれることでしょう。



2月の行事予定

大成講 一日(木)

ハザード会・募金活動 三日(土)

別院募金 十二日(月)

文芸クラブ 十三日(火)

ハザード会プレゼン 十八日(日)

今月の掲示板

いかなるが 苦しきものと
向うならば 人を隔てる
心と答えよ

良寛

◆「世の中で、何が一番見苦しく悲しいもので
すかと聞かれたら、それは人を分け隔てする心
だと答えなさい。」こう良寛さんは言っていま
す。彼の生き様はその正反対でした。

訃報

中山 馬次郎さん 山路町 享年九十才

*奥さんの死から十日後、後を追うかのようにお浄土へ逝
されました。仲良しご夫婦の大往生でした。

和木 純子さん 名古屋市 享年八十五才

いずみのほとり

◆除夜の鐘は孫の友人やその親、近隣の方々、住
職の友人ではるばる沖繩から来てくれた人たちが、
満員御礼の状態でした。その時に地震が起ころな
くて良かったです。◆地震が起きた時、前坊守が
鐘撞き堂を見にいったら、倒れそうなくらい揺れ
ていたそうです。鐘が反対方向に揺れて、重心の
バランスを取っていたので倒壊は免れました。こ
の原理は、五重塔の心柱と同じです。心柱が反対
方向に揺れ、塔の倒壊を防ぐため、日本では過去
の大地震でも五重塔の倒壊はありません。その原
理を応用したのが、現代建築の最先端、東京スカ
イツリーです。(老僧)

◆十二日に別院に募金に行きました。金額はいつ
もの十倍、二十五万円でした。皆さんがいつも
コインの代わりに、お札をどんどん入れて下さっ
た結果です。本当にありがたいことでした。(老
僧)

◆募金は、今困っている人のもとに、最優先で届
けられます。ご協力よろしく願います。